

今年のカメムシ類の被害が多発する恐れがあります！

1 果樹カメムシ類について

果樹カメムシ類は果実に口吻を差し込み、消化液を送り込んで対外消化したものを吸汁していると考えられています。そのため、被害部位は消化液の影響でスポンジ状に壊死します（図1）。

福島県では、越冬能力の優れるクサギカメムシ（図3）と繁殖能力の高いチャバネアオカメムシ（図4）の被害が多く発生します。被害は、一般的に①越冬世代成虫による5月頃と②当年世代の新成虫による7～8月頃に発生します（図2）が、飛来量や飛来時期は年や地域により大きく異なります。

カメムシ類は、夏になるとスギ・ヒノキ林に移り、「球果」をエサに盛んに繁殖します。この球果が少なくなると、エサを求めて果樹園にも飛来します。



図1 果樹カメムシ被害果

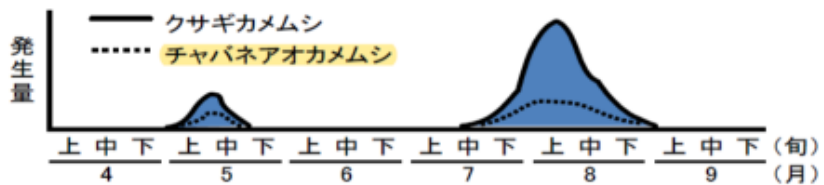


図2 果樹カメムシ類の発生消長（福島県北地方）



図3 クサギカメムシ



図4 チャバネアオカメムシ

2 今年の発生について

今年は、果樹カメムシ類による被害が多発する恐れがあります！

スギ花粉の飛散量が多い年は、カメムシ類のエサである「球果」が山林で豊富だと言われています。昨年（令和元年）はスギ花粉の飛散量が多いと予想されていたため、山林の「球果」も豊富で、カメムシ類は昨年盛んに増殖したと考えられます。一方、今年（令和2年）はスギ花粉の飛散量が少ないと予想されていたため、山林の「球果」も少ない可能性が高く、エサ不足となったカメムシ類は果樹園等に飛来して被害を及ぼす恐れがあります。

果樹園でカメムシ類の成虫（図3、4）や卵（図5）、幼虫（図6）を見つけたら、要注意です！



図5 クサギカメムシの卵

図6 クサギカメムシの幼虫

3 カメムシ類の防除について

7月中旬から8月上旬の期間は、新成虫が多く発生する時期です。薬剤防除を徹底して被害を防ぎましょう！

なお、令和2年度会津地方主要果樹病害虫防除暦に従って防除をしているリンゴ・モモ・カキ園地では、薬剤を次の（1）～（3）のとおり変更する等の対応をとりましょう。

（1）リンゴにおける令和2年度会津地方主要果樹病害虫防除暦の変更例

散布回数 （防除時期）	変更前の薬剤 （収穫前日数）【希釈倍数】	変更後の薬剤 （収穫前日数）【希釈倍数】
第9回 （7月10日頃）	オシラン水和剤（14日前）【500倍】 サムコフロアブル10（前日）【3,000倍】 ダニゲッターフロアブル（前日）【2,000倍】	オシラン水和剤（14日前）【500倍】 <u>アルパリン顆粒水溶剤（前日）【2,000倍】</u> ダニゲッターフロアブル（前日）【2,000倍】
第11回 （8月3日頃）	オシラン水和剤（14日前）【500倍】 サムコフロアブル10（前日）【3,000倍】 コロマイト乳剤（前日）【1,000倍】	オシラン水和剤（14日前）【500倍】 <u>MR.ジョーカー水和剤（14日前）【2,000倍】</u> コロマイト乳剤（前日）【1,000倍】

（2）モモにおける令和2年度会津地方主要果樹病害虫防除暦の変更例

散布回数 （防除時期）	変更前の薬剤 （収穫前日数）【希釈倍数】	変更後の薬剤 （収穫前日数）【希釈倍数】
第11回 （7月20日頃）	ベルコート水和剤（前日）【1,000倍】 サムコフロアブル10（前日）【3,000倍】	ベルコート水和剤（前日）【1,000倍】 <u>アクトラ顆粒水溶剤（前日）【2,000倍】</u>

（3）カキにおける令和2年度会津地方主要果樹病害虫防除暦の変更例

散布回数 （防除時期）	変更前の薬剤【希釈倍数】	変更後の薬剤【希釈倍数】
特別散布 （7月10日頃）	キノンドー水和剤80（※）【1,000倍】	キノンドー水和剤80（※）【1,000倍】 <u>ロディー水和剤【1,500倍】</u>
第5回 （7月20日頃）	スプラサイド水和剤【1,500倍】	スプラサイド水和剤【1,500倍】

※ キノンドー水和剤80の散布は、落葉病の発生が少なければ省略しても良い。